

(10) 物流の24時間化と出荷波動の動向

1) 時間帯別の出荷動向

出荷時間帯を0～5時台、6～11時台、12～17時台、18～23時台に分類し、各々の時間帯における流動量比率についてみると、6～11時台が55.5%と最も多く、以下、12～17時台(32.6%)、0～5時台(6.8%)、18～23時台(5.2%)の順になっている。

業種別にみると、総じて6～11時台および12～17時台の比率が高いが、とくに鉱業では、6～11時台の出荷の比率が70.3%と高くなっている。

代表輸送機関別にみても、総じて6～11時台および12～17時台の比率が高いが、午後に集荷される割合が高い宅配便等混載、航空では、12～17時台の比率が各々63.6%、67.7%となっている。また、18～23時台も各々23.2%、21.4%あり、他の輸送機関と比較して夜間の出荷において利用される比率が高くなっている。

品目別にみても、総じて6～11時台および12～17時台の割合が高いが、鉱産品については、6～11時台の出荷の比率が70.8%と高いのに対し、他の品類に比べて宅配便等混載、航空の利用比率が高い雑工業品については、12～17時台の出荷量が6～11時台の出荷量を上回っている。

一方、従業員規模別にみると、49人以下の事業所と50人以上の事業所では、いくぶん態様が異なる。前者においては、0～5時台の出荷は少なく、6～11時台の出荷の比率が高いのに対し、後者においては、0～5時台の出荷の比率が1割を超えているほか、18時台～23時台の出荷比率も小規模事業所に比べ高くなっており、規模の大きな事業所ほど、物流の24時間化の進展度合いが高まっている傾向がうかがえる。

2) 月別出荷波動

月別出荷波動とは、月ごとの出荷量の変動を示すために、1ヶ月当たりの平均出荷量(年間出荷量の12分の1)を1.00として各月の出荷量を指数化したものである。

月別出荷波動をみると、3月と12月に出荷のピークがある。逆に、ゴールデンウィークのある5月、旧盆休暇がある8月、正月休暇がある1月がボトムになっている。発産業別にみると、製造業と卸売業は概ねも類似した波形を示しており、鉱業ではピークとボトムの出荷水準の差が大きいのが特徴である。また、倉庫業では、1月と2月の出荷水準が低くなっている。

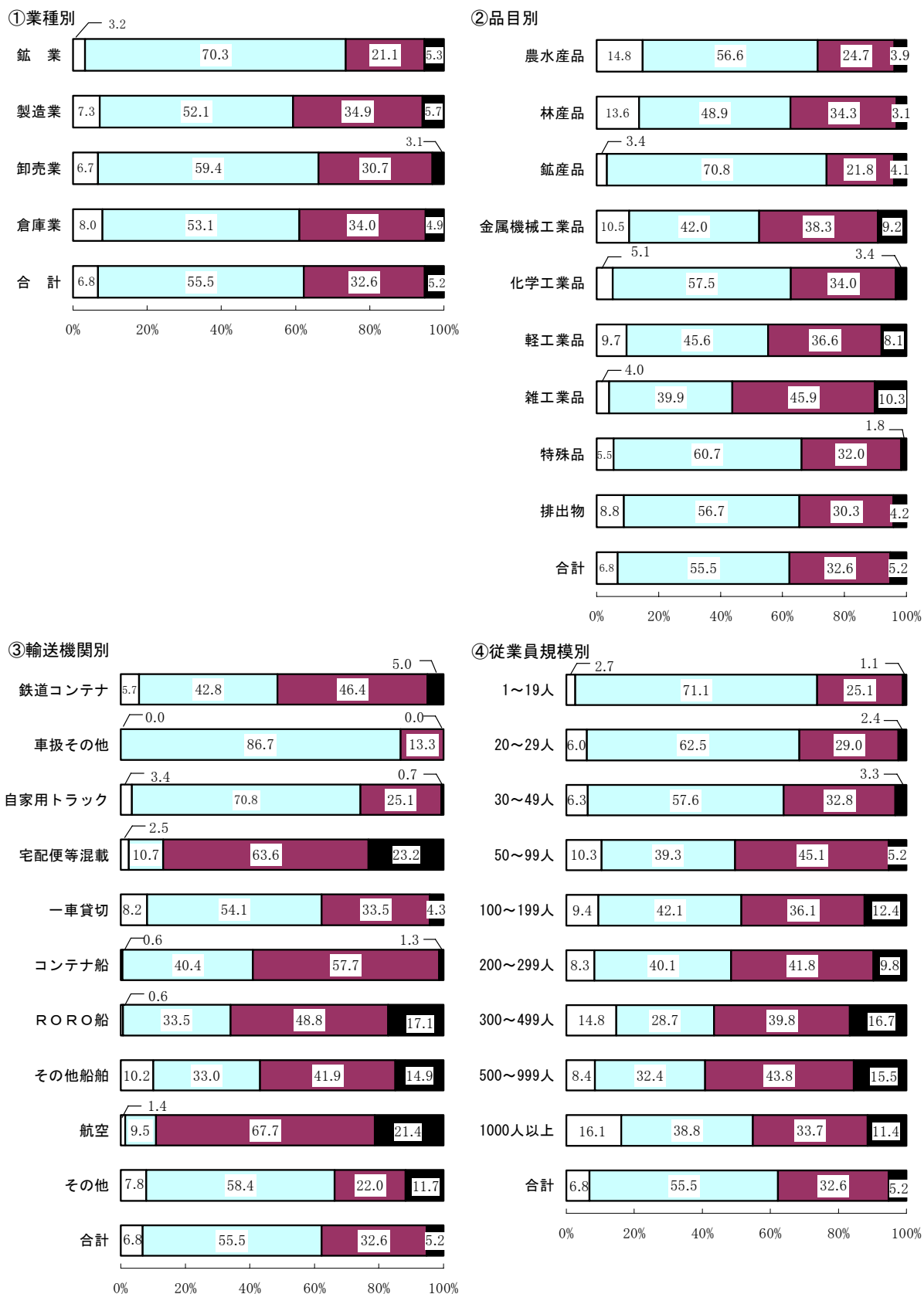
3) 曜日別出荷波動

曜日別出荷波動とは、曜日ごとの出荷量の変動を示すために、曜日当たりの平均出荷量(年間出荷量の7分の1)を1.00として各曜日の出荷量を指数化したものである。

曜日別出荷波動をみると、月曜から金曜の間では、月曜と金曜の出荷水準がやや高くなっている。発産業別にみると、鉱業、卸売業、倉庫業では月曜と金曜の出荷水準が高い傾向がうかがえるが、製造業については、他の3産業に比べ出荷が平準化している。

図 3 - 3 - 45 出荷時間帯の状況

(3日間調査 単位:%)



注) 代表輸送機関がトレーラーである貨物は一車貸切に、フェリーである貨物は、出荷時に利用した輸送機関(自家用トラック、宅配便等混載、一車貸切のいずれか)を含む。

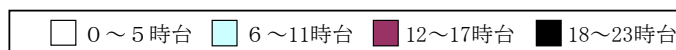
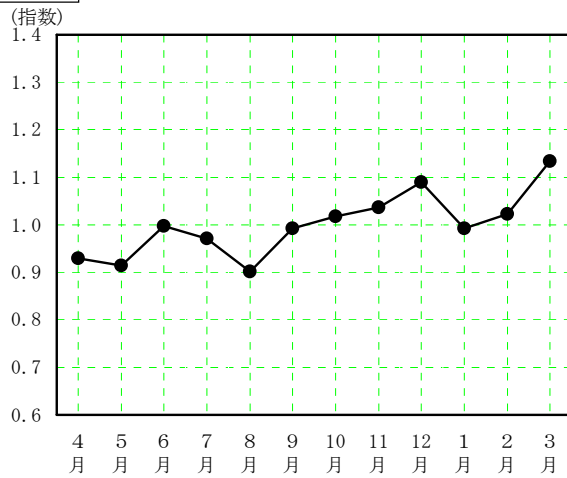
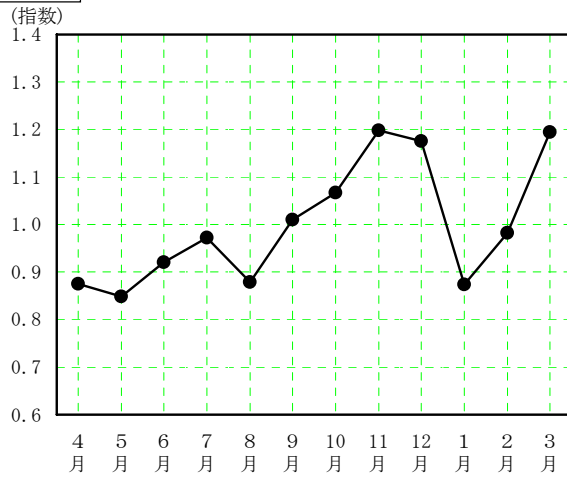


図 3-3-46 発産業別にみた月別出荷波動（年間調査）

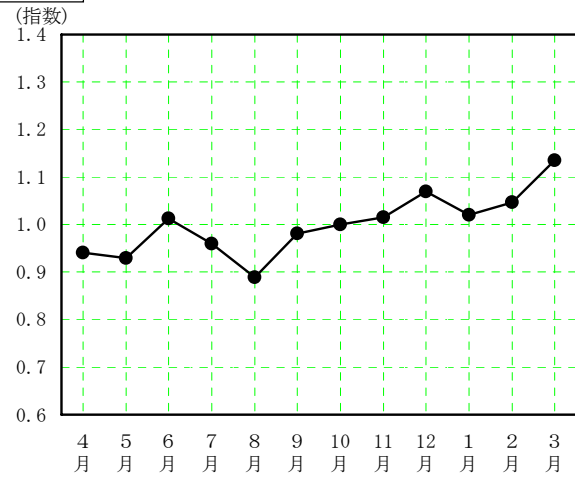
合 計



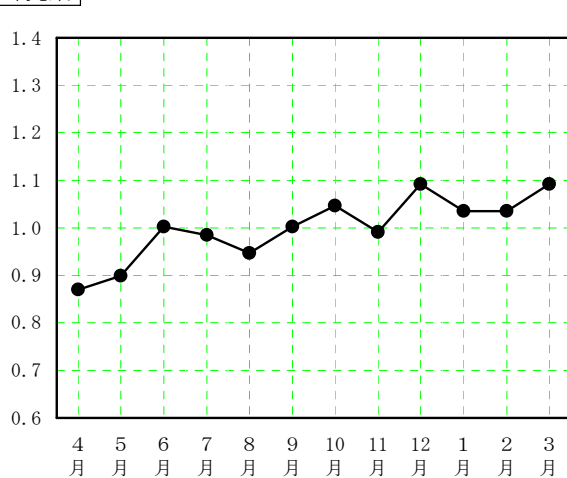
鉱 業



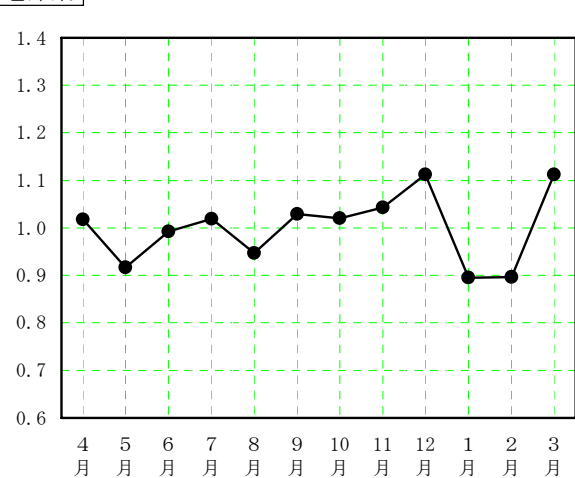
製造業



卸売業



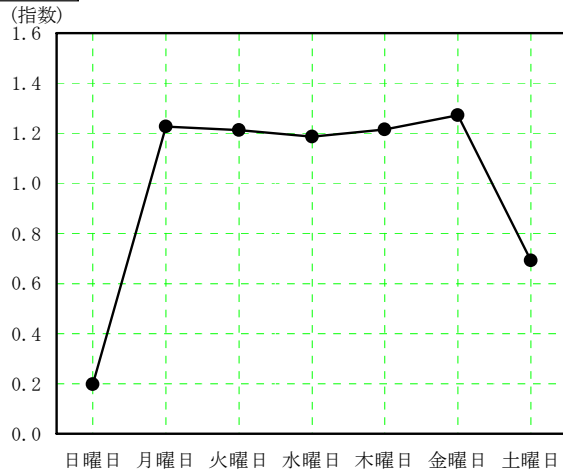
倉庫業



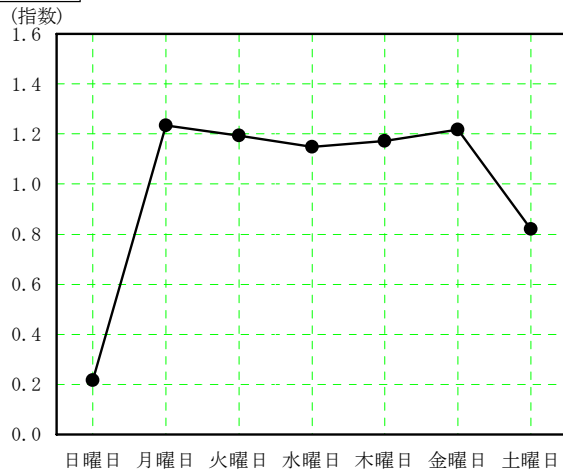
注) 1ヶ月平均出荷量を1として各月の出荷量を指数化したもの

図 3-3-47 発産業別にみた曜日別出荷波動（年間調査）

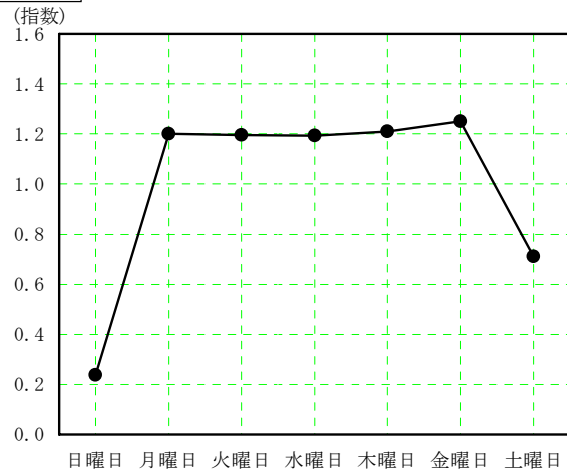
合 計



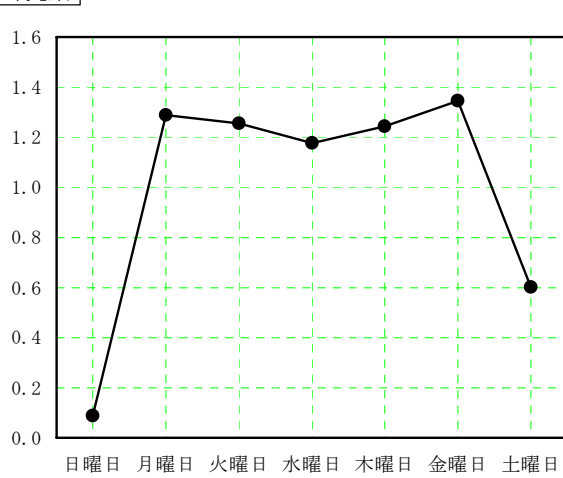
鉱 業



製造業



卸売業



倉庫業

